

平成22年に「恋人の聖地」として認定された須坂アートパークはこの時期、華やいた空気に包まれる。取材とはいえ、男一人で来るにはもったいないと実感した。

春の訪れを一足早く告げる恒例の「三十段飾り千体の雛祭り」は今年で11回目。パーク内の「世界の民俗人形博物館」「須坂版画美術館」「歴史的建物園」の3カ所で、江戸時代後期から平成10年代の総勢6000体のひな人形が訪れる人を迎えてくれる。

圧巻なのは、高さ6疋、幅5〜7疋のひな段に1000体のひな人形が並ぶ、2つの「30段飾り」だ。人形博物館のそれは、ぼんぼりと桜でハートを形取り、恋人の聖地らしくカップルの記念撮影に打ってつけである。もう一方の版画美術館の30段飾りは桜と橘を使用して須坂市章を再現している。市章は今年、没後150周年を迎えた第13代須坂藩主・堀直虎(1836〜68年)の家紋の六角形を須坂の「ス」でかたどった。

また人形博物館に展示されている6段飾りの「はこちゃんのおひなさま」も来場者の注目を集めている。児童文学者の丸田かね子さんの同名の絵本(銀の鈴社

「恋人の聖地」彩るひな人形

雪をものともせず「春」を演出する須坂アートパーク



発行)にちなんで、作者の丸田さんが人形博物館に提供した自身のひな人形だ。

「はこちゃん」以外のひな人形のいずれも過去に地元や全国から寄せられたもので、年代で異なる多彩なひな人形の表情、たたずまいを堪能することができる。それぞれの時代の世相も垣間見られるのも魅力である。

学芸員の広田華子さん(30)は「各時代のひな人形を見比べて親子3代で楽しんでもらえる。本物のひな人形を見て、春の気分浸ってほしい」と話している。さあ、春爛漫の恋人の聖地に行こう。

(高木桂一)



豪華絢爛(けんらん)な1000体のひな人形が並ぶ、世界の民俗人形博物館の「30段飾り」=いずれも20日、須坂市

■須坂アートパーク 須坂市野辺1367の1。ひな人形の展示は、世界の民俗人形博物館が4月16日まで、須坂版画美術館と歴史的建物園は5月7日まで。博物館と美術館は共通入場券で1人500円(中学生以下無料)。建物園は無料。期間中は休館日なし。問い合わせは、世界の民俗人形博物館 ☎026・245・2340。